

平成24・25年度深谷市教育委員会研究委嘱

研究主題

確かな生徒理解に立ち、どの子にも
「わかった、できた」喜びを味わわせる授業の創造



平成25年11月8日(金)
深谷市立藤沢中学校



あいさつ

深谷市教育委員会教育長

小柳光春

深谷市立藤沢中学校におかれましては、平成24・25年度の2年間にわたり、深谷市教育委員会の研究委嘱を受け、『確かな生徒理解に立ち、どの子にも「わかった、できた」喜びを味わわせる授業の創造』を研究主題として研究を進め、その成果をここに発表されますことに、心から敬意を表します。

深谷市教育委員会では、郷土の偉人洪沢栄一翁の心を受け継ぐ教育を推進するために、深谷市教育振興基本計画「立志と忠恕の深谷教育プラン」を策定いたしました。その中で「社会を生き抜く力の育成」を基本目標に掲げ、「未来を切り開くための確かな学力の育成」を図るために、各学校が創意工夫ある教育活動を展開できるよう努めているところです。

藤沢中学校では、県の研究委嘱を受け、特別支援教育体制整備事業に取り組んだ成果を生かし、この2年間の研究で「特別支援教育の視点に立った生徒の実態の把握と課題の設定」を継続しつつ、「授業の工夫・改善」のため、「学習内容の明確化」「ICTの活用と視覚化」「見通しと振り返り」「意欲や言語力を高める学び合い」について、研究組織を作り上げ、全職員の共通理解のもと、同じベクトルで研究に取り組んでいただきました。

これらの取組により、生徒たちは「わかった、できた」という実感を持ち、学習意欲の向上、学力の向上へと歩みを進めていくものと確信しております。

各校におかれましては、本研究の実践と成果を自校の教育活動の更なる充実につなげていただくことを御期待申し上げます。

結びに、藤沢中学校の研究に際し、御指導、御支援をいただきました先生方に厚く御礼申し上げますとともに、島崎校長先生をはじめとする藤沢中学校の先生方の御努力と、様々な面において支えていただきました保護者、地域の皆様の御支援に深く感謝申し上げます、あいさつといたします。



あいさつ

学校長

島崎祐子

深谷市教育委員会より、平成24・25年度の2年間にわたり、研究委嘱の機会をいただき、『確かな生徒理解に立ち、どの子にも「わかった、できた」喜びを味わわせる授業の創造』と題して、全教職員で研究・実践ができましたことに、まず感謝申し上げます。

本校では平成21年度と22年度に、「一人一人の学習意欲を高める学習指導の研究」を学校研究課題とし「学習規律の徹底」「少人数指導の充実」「藤中検定」等に取り組み、各種学習状況調査において、当時、全国平均の10倍もあった無回答率の改善を図ることができました。

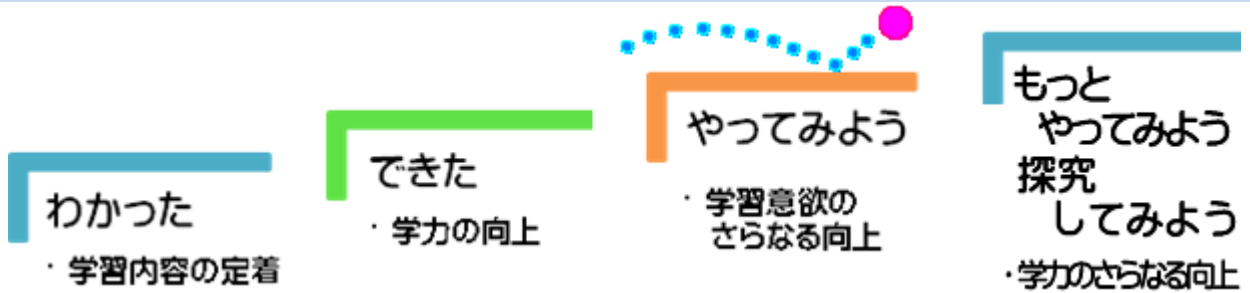
一方、こうした学力向上への取組を進めるなかで、特別な支援を必要とする生徒が多くいることが明確になり、平成22年度から3年間、埼玉県教育委員会より「特別支援教育の視点に立った校内支援体制づくり」のモデル校として研究を進めました。小中連携を図り、早期より学習に対する困り感のある生徒への支援や「ICTを活用した学習活動の工夫」「学習のねらいや学習内容の『焦点化・視覚化・共有化』」を図りました。きめ細やかな支援の成果、問題行動が減少し、落ち着いた学習や充実した教育活動が営まれ、不登校生徒が減少し、現在もゼロを目指して取り組んでおります。

本校の生徒は穏やかで優しく、地域からも温かく見守られ、充実した学校生活を送っていますが、学校全体の学力の向上は未だ十分ではないのが実態です。その根底には、特に「学習意欲」「夢や目標を持つ力」「自尊感情」がなかなか高まらないのが課題です。このような生徒の実態から、特別支援教育の視点に立ち、生徒一人一人の学習上の課題を的確に把握するとともに、「学習内容の明確化」「ICTの活用と視覚化」「見通しと振り返りのある授業」「意欲や言語力を高める学び合い」の4つを意識した授業を全ての教員が共通実践することにより、どの子にも「わかった、できた」喜びを味わわせる授業が展開できるのではないかという仮説をたてました。このような授業改善が真の学力向上への道であると信じております。

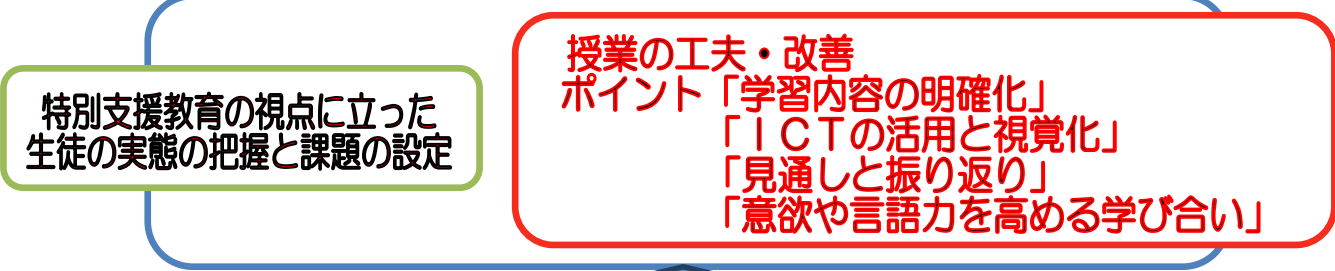
本日は、各クラスでその成果の一端を発表させていただきますが、指導法や研究の成果は未だ途上にあり、是非忌憚のない御意見・御指導を頂戴したい次第です。本校の教職員は、常に『チーム藤沢+1』の意識で、授業改善に向けての取組のできる誇れる教師集団です。今日の発表はゴールではなく、これをスタートに、さらに確かな学力の向上と健やかな心身の育成を図り、志高く、夢に向かって粘り強く取り組む生徒の育成に学校全体で取り組んでまいります。

最後にこれまでの研究推進にあたり、御指導・御支援いただいた、深谷市教育委員会の先生方をはじめ多くの先生方に感謝申し上げます、あいさつといたします。

1 研究の概要



主題 確かな生徒理解に立ち、どの子にも
「わかった、できた」喜びを味わわせる授業の創造



特別支援教育の視点に立った
生徒の実態の把握と課題の設定

授業改善・指導法の工夫

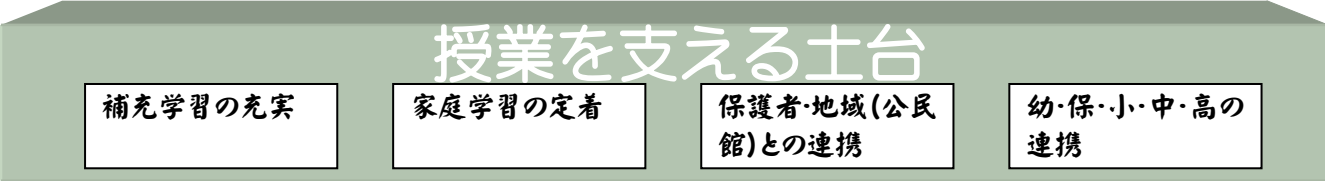
- ・学習内容の明確化
- ・ICTの有効活用等による視覚化
- ・見通しと振り返りのある授業づくり
- ・学び合いの場面設定
- ・習熟度別指導
- ・相互授業参観

基礎基本の定着・学習習慣づくり

- ・家庭学習ノートの有効活用
- ・ノート指導の工夫
- ・学習掲示物の工夫
- ・板書計画の充実
- ・学習規律・立腰指導
- ・あいさつ・返事の指導
- ・全国学力調査、県学調、三達の分析・検証

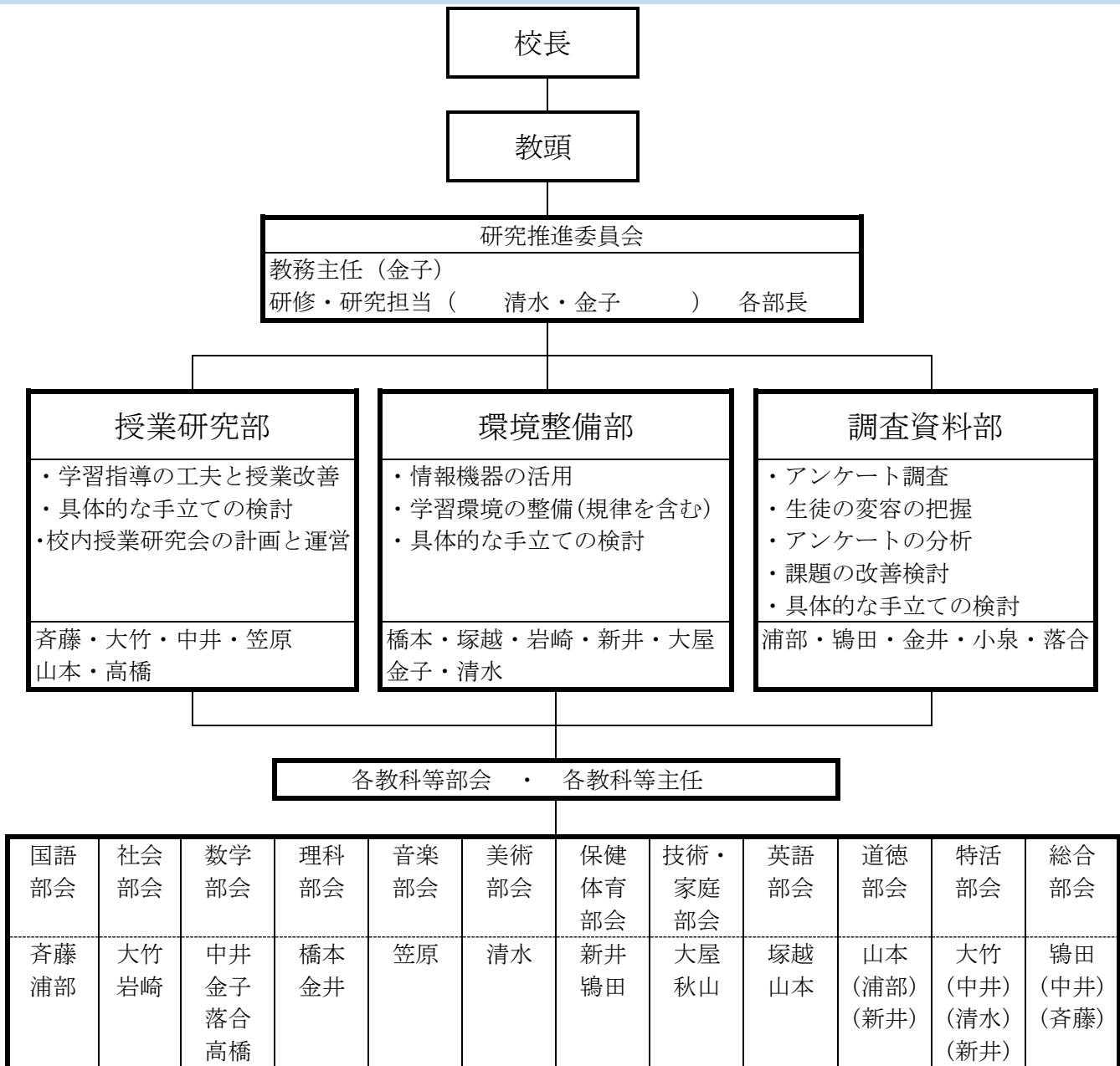
夢や目標の実現 (夢や目標を持てる)

- ・パスポート学習(総合的な学習の時間)一日調査体験学習
- ・地域を支え・支えられる体験学習
- ・花フェスタ、オープンガーデン
- ・地域ボランティア活動
- ・自尊感情を育てる取組
- ・学級会活動



課題・学力向上に向けた 授業改善 (無回答を減らす取組) ・学習習慣の確立 ・夢や目標を持たない無気力からの脱却		学習意欲の向上 将来の夢や目標への意欲 話を聞き、自分の意見を述べる力の育成 自尊感情の向上		
H22~24	特別支援教育の視点に立った支援体制づくり 特別支援教育体制整備事業 埼玉県委嘱	↑	↑	↑
H21~22	学び合いの重視 学習力の定着 コミュニケーションスキルの向上	学習意欲の向上	学習規律の向上	自尊感情

2 研究推進のための組織図



3 研究の取組の実態

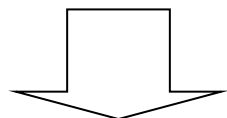
授業改善・指導法の工夫

取組のポイント

特別支援教育の視点に立った、共通した授業展開の工夫

- 学習の見通しや手順を示し、学習への意欲を高める工夫
- 課題に対するフィードバックなど、学習評価の工夫
- 授業における ICT 活用の工夫
- 学び合いの場面設定
- 校内授業研究会の実施

取組のポイント…評価カードによる相互評価



学びの「見える化」



基礎基本の定着・学習習慣

取組の
ポイント

できないことを見つけ、できるようになる指導を工夫し、できるようにする。

○学習意欲の向上

- ・家庭学習ノートの有効活用
- ・家庭学習の手引きの活用
- ・板書計画の充実
- ・ノート指導の工夫と評価

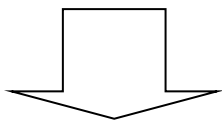


家庭学習のヒント

ノート指導の評価

○学習規律の共通理解

- | | |
|-----------|------------|
| 腰骨を立てる | 始業・終業の挨拶 |
| チャイム前着席 | 持ち物の確認・整理 |
| ロッカーの整理 | スタートブックの活用 |
| 集会時の無言入退場 | |



学習環境・学習意欲の向上



夢や目標の実現

取組の
ポイント

他者との関わりを重視した、コミュニケーションスキルの向上と、自尊心の向上を図る。自分と向き合うことで、自己有用感を高め、夢に近づく基礎づくりを行う。

- パスポート学習(総合的な学習の時間)一日体験学習(全校縦割りによる課題解決学習)を計画定期に実施。
- 地域を支え・支えられる体験学習(お花見会・早朝散歩)
- 花フェスタ、オープンガーデン
- 地域ボランティア活動



オープンガーデンの活動



パスポート学習

地域ボランティア



学び合い・自分の考えを伝える (言語活動の充実)

授業を支える土台作り

取組の ポイント

「ゆっくりとでも確実に一歩ずつ前進」できることを第一優先とした支援

補充学習

3つの異なる学習会の実施…年間を通して個々の生徒の意欲と学力に応じた学習会を実施



- ① 毎学期希望者を募って行う学習会(年間15回)
- ② 定期テスト前に行う学習会(年間5教科5回)



放課後学習会



家庭学習の定着

- 課題や宿題の工夫、家庭学習帳の充実
- 「チャレンジ藤中生」(生徒による自主学習の点検)
- 学習クラブ(プリント作成ソフト)の活用



学習クラブ
ソフトの利用



チャレンジ藤中生

- ③ 長期休業中学習会 (学年ごとに10日間以内)

学んだことが一人で解ける

保護者・地域・公民館との連携

- 「目指す生徒像」の共有
- HP、各種便りでの発信
- フリー参観・あいさつ運動の実施
- 公民館主催行事への参加
- 学校応援団の充実



PTA朝のあいさつ運動

学校応援団と緑化活動



幼・保・小・中・高の連携

- 小学校との交流事業の推進 … 英語・体育出前授業、生徒会訪問、小中連携巡回相談、小中合同研修会、4つの部会(国語、算数数学、体育、英語)による年間指導計画づくり、つなぎ教材の検討、共通確認事項等
- 保育園との交流事業 …………… 技術家庭科保育実習 サツマイモ植え
- 幼保小中合同研修会の実施 … 人権教育研修会
- 高校出前授業(年2回)と高校訪問(2・3年)



保育園交流事業



小学校交流事業



高校出前授業

4 授業研究部の取組

授業における学習指導の工夫

- 学習内容の明確化（学習のねらいや課題の確認）
- 学習の流れがわかるようにする
- 理解を深めあう学び合い
- ICTの活用・視覚化
- 振り返り（目標達成の状況把握）

明示・視覚化・学び合いの実際



「学習のねらいや課題」の明示



「学習の流れ」の明示



教材や資料の「視覚化」



「学び合い」による理解の深め合い

相互授業参観の取組

全教員による教科を超えた相互授業参観・研究協議(年2回)

取組の内容		本時における具体的な手立て	
学習内容や課題の確認	カードと板書	カードのみ	その他()
学習の流れがわかるようにする	カードと板書	カードのみ	口頭のみ 板書のみ
理解を深めあう(学びあい)	ペア トライアングル 4人組	生活班	その他()
ICTの利用・視覚化	拡大提示装置	CD DVD	デジタルカメラ パソコン プロジェクター 電子黒板
振り返り(目標達成の状況把握)	自己評価カード	ノートに記入	代表者の発表 挙手での確認

3 本時の指導
① 本時のねらい
・文章の展開に沿って、要旨をとらえ、筆者の考えをまとめることができる。
② 展開

学習活動・学習内容	学校研究課題との関連
導 1 漢字テストの返却。 2 学習課題・学習目標を提示する	始業のあいさつをしっかりさせる。
3 本時の流れを確認する	拡大提示装置
4 前回までの復習をする。	
5 教科書を読み「ハナパチ」と「ハナアブ・ハエ」の違いを観点別にまとめる。	ワークシート生活班 拡大提示装置
6 二番目の「問い」に対する「答え」をまとめる。	ワークシート生活班 拡大提示装置
7 第三大段落で述べられている筆者の考えをまとめる。	ワークシート生活班 拡大提示装置
まとめ 8 今日できたこと・わかったことを自己評価カードにまとめる	自己評価カード
期待する【生徒のできたこと・わかったこと】 「オオバスのキ」や「アキノキリンソウ」の違いとその理由について、筆者の考えを文章にまとめられる。	終業のあいさつをしっかりさせる。

4 備考 生徒数 男子 18名 女子 13名 計 31名

相互授業参観カード

日時	教科	クラス	授業者	参観者
校時				

教材名・単元名「 」

学校研究課題(確かな生徒理解に立ち、どの子にも「わかった、できた」喜びを味わわせる授業の創造)との関連

取り組みの内容	本時における具体的な手立て
1 学習内容や課題の確認	カードと板書・カードのみ・その他() 評価
2 学習の流れがわかるようにする	カードと板書・カードのみ・口頭のみ・板書のみ その他() 評価
3 理解を深めあう(学び合い)	ペア・生活班・4人組・その他() 評価
4 ICTの利用・視覚化	拡大提示装置・CD・DVD デジタルカメラ・パソコン・プロジェクター・その他() 評価
5 振り返り(目標達成の状況把握)	自己評価カード・発表・ノート記入・挙手で確認 評価

「5つのポイント」の共通実践

言語活動の充実

教科の枠を超えた取組

【総合的な学習の時間】(全校縦割り)



全校発表会

一日調査体験

【特別活動】

話し合いのルール

活発な議論のために

- ① 提案者の意見を尊重し、よく聴くこと
迷ったときは、原案に賛成しよう。提案者は他人の何倍も考えている。
- ② 全員が話し合いに参加し、なんらかの形で意思表示をする。
- ③ 意見を言うときには、まず、「賛成」か「反対」か、をはっきりと言い、次にその理由を言うこと。
- ④ 意見のある班や個人は、自分の意見を通し、相手を納得させるようにがんばること
- ⑤ 決定したら全員で、全力で従うこと

マナー面・態度の面について

- ① とにかく、発言者の話をよく聴く。





話し合い活動ワークシート

5 環境整備部の取組

学習規律、学習習慣、基礎学力の定着を目指した学習環境の整備

- 明示的な掲示の制作・利用
- 号令の一斉指導（学級委員、号令係、体育委員）
- ICT利用の推進
- 家庭学習の習慣化と質の向上

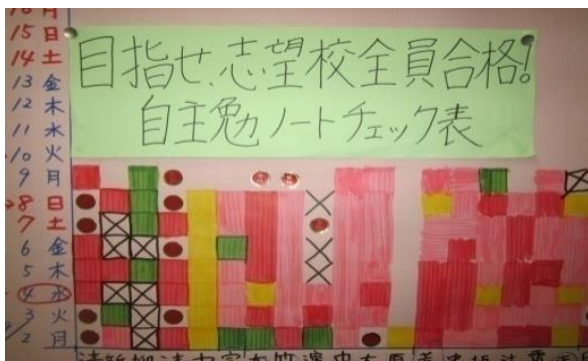
明示的な掲示

通年	1 学期	2 学期	3 学期
			
	【学習規律】 学ぶ心構えを大切にする		【言語活動】 言葉を大切にする

- ・ 掲示場所の統一
- ・ 号令係への一斉指導（前期、後期）→生徒全体への説明（→学年指導→学級指導）
- ・ 担任による指導（2学期・3学期）

家庭学習 習慣化に向けて強化週間

学年ごとの学習目標にあわせて家庭学習の習慣化を図る。状況と成果を視覚的に訴え意欲を高めさせる。

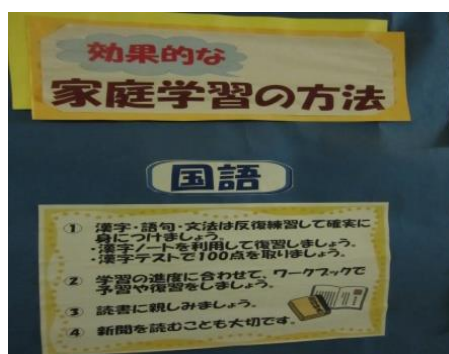


技術 ICT 係と始業風景

日常的に ICT を活用し、より具体的に授業内容を理解させ「わかった」の場面を増やす。また、始業終業の挨拶を大事にする指導をとおして気持ちの切り替えをし、授業に臨む姿勢を作らせる。



家庭学習 質の向上に向けてノートの紹介



ノートグランプリ

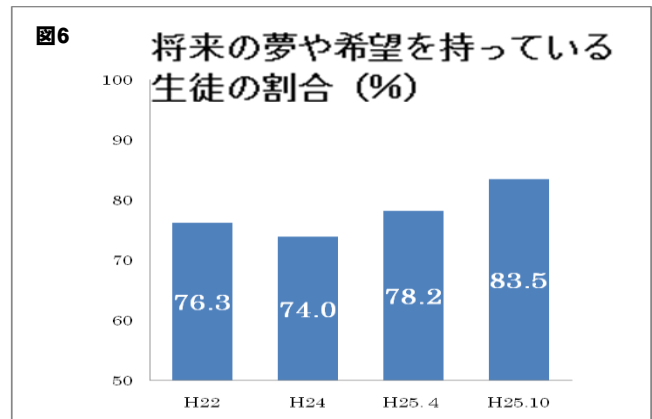
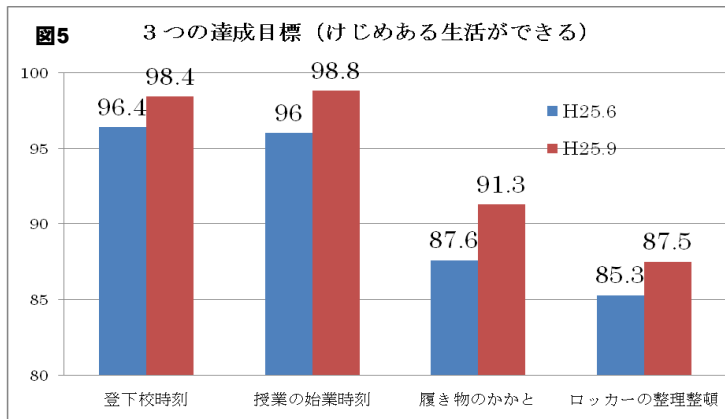
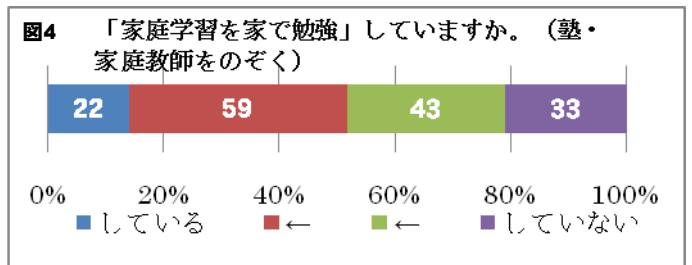
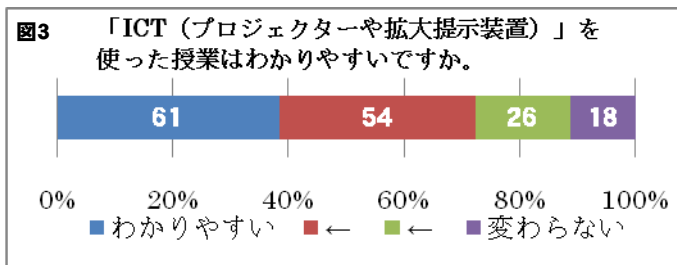
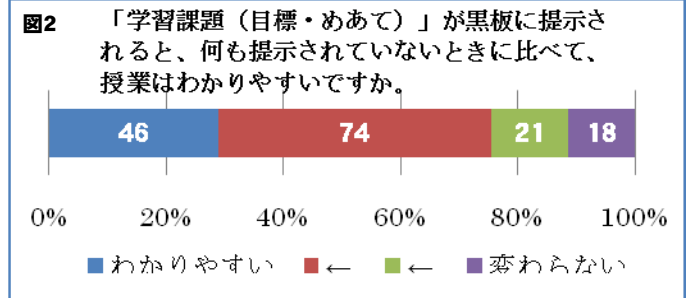
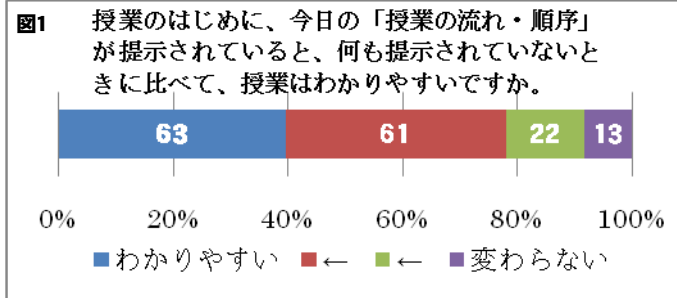


6 調査資料部の取組

研究の効果検証のための「質問内容の精選」「調査・分析」

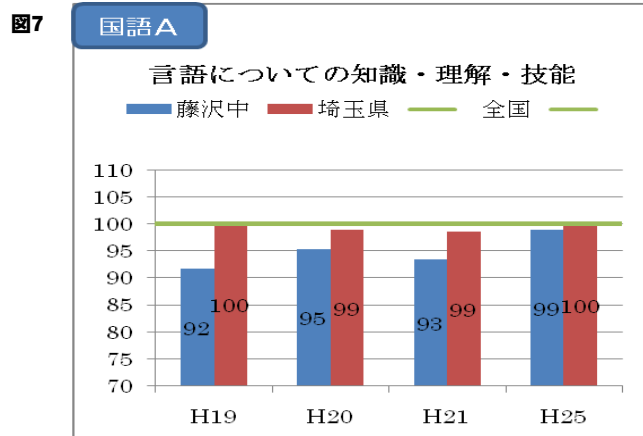
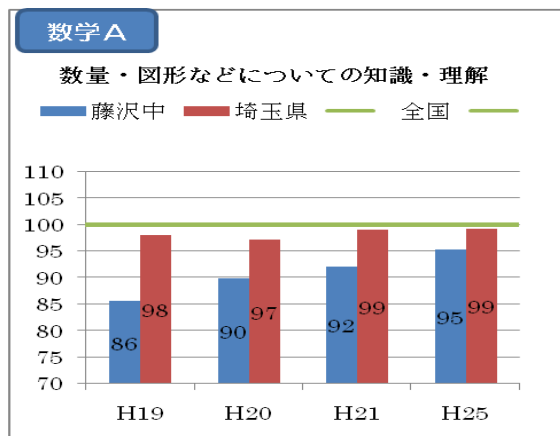
- アンケート調査による生徒の変容の把握
- 各種学習調査の結果の分析
- 課題の改善検討、具体的な手立ての検討
- 授業研究部、環境整備部との連絡調整

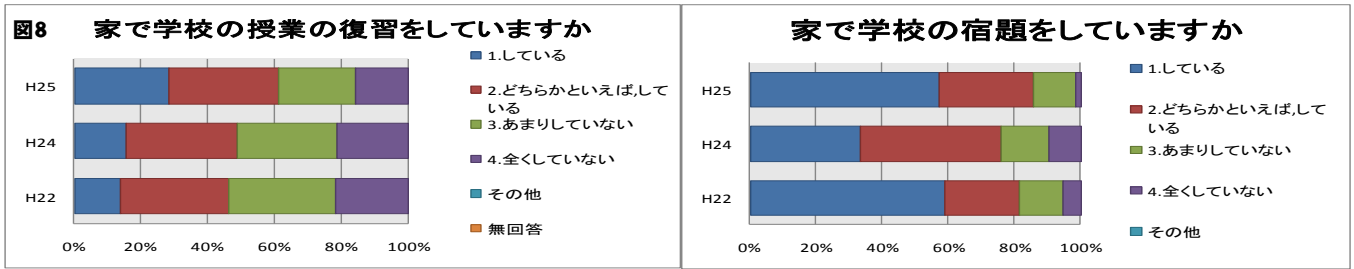
アンケート調査から



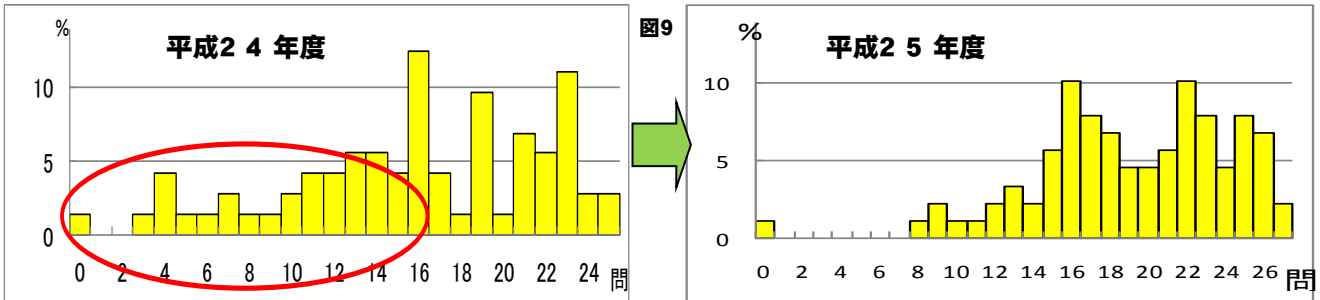
学力調査の結果から

○全国学力・学習状況調査（平成24年度～平成25年度）





○埼玉県小・中学校学習状況調査（数学）



7 研究のまとめ(成果と課題)

1 成果

本校の課題である「学習意欲・学力（・自尊感情の向上）」に係る研究は平成21年度から始まった。特別支援教育の視点を加え、さらに生徒理解に努め、生徒の実態に即して授業の改善や指導法の工夫を図っていく中で、次のような成果が得られた。



- (1) 全教員による教科を超えた相互授業参観・研究協議を実施し、授業改善の5つのポイントを共通実践することができた。この取組みを通して、授業のねらいを理解し、見通しを立てて取り組む生徒が増えた。そのため、「授業が全体的にわかる」の割合が8割以上になった。（本年度1学期・2学期 77.7%→82.7%）＜P8 図1～3＞
- (2) 学習環境を整え、学習規律の指導を通して、三達・生活アンケートの『けじめある生活ができる』の4項目において向上がみられた。授業へ臨む態度が改善された。＜P8 図5＞
- (3) 三達・県学力調査・全国学力調査の結果を考察・活用し、基礎基本の定着と学習習慣・学習意欲の向上に取り組むことができ、学力の向上が少しずつ表れるようになった。＜P8 図7＞
- (4) 特別支援教育の視点に立ち、きめ細やかな指導を行うことで平成21年に7人いた不登校生徒数が平成25年現在1人に減少した。また、パスポート学習、地域ボランティアなど体験的学習や学校行事を通して、学校やクラスに所属感を持ち「学校でみんなと活動することが楽しい」と答える生徒が増え、「将来の夢や目標を持つ力」が次第に身についてきた。＜P8 図6＞
- (5) 補充学習（年間のべ58教室）をとおして、学習困難な生徒への支援を確立してきた。そのため、二極化していた低位層生徒の割合が減り正常分布に近づいている。また、年間をとおして補充学習へ自主的に参加する生徒の割合も増え、意欲の向上がみられた。＜P8 図9＞
- (6) 家庭・地域・公民館等と目指す生徒像を共有、連携した結果、平成25年度の学校評価において、保護者の「地域に開かれた信頼できる学校」の評価が97%をこえ、近年で最も高い評価となった。

2 課題

- (1) 授業の始業終業のあいさつは指導の成果もあり、どのクラスでも気持ちのよい声が響くようになってきたが、個人で意識しながら行う『場に応じたあいさつや、返事』においては学年によって差があり、課題が残る形となった。引き続き、あいさつと返事の大切さを唱え指導を継続していく。
- (2) 家庭学習の重要性に気づかせ、習慣化を目指す。特に課題の多い生徒への指導は具体的に方法を教えたり、点検・表彰をしたり、継続的に行えるように学校全体で工夫する。＜P9 図8＞

- (3) 「将来の夢や目標を持つ力」が向上してきたが（平成23年度 64.3%）進路指導・キャリア教育の研究の視点からもさらに研究を進めたい。
- (4) 言語活動をとおした教科の指導において、グループ学習の質を高めていく必要がある。「話し合いのルール」の活用や発表の意図的場面設定を行ってきたことで、少しずつしっかり聞き、発表できる生徒も増えてきたが、全体的に課題が残る。授業の中で思考力のアップにつながる言語活動を意図的に取り入れるなど、学び合いの具体的な研究を深めていく。



3 おわりに

この研究と実践を通して、本校の課題がより明確になった。今後も職員が同じ歩調で共通実践することにより、本校の課題解決に向け研修を深めていきたい。今後も地域と連携しながら「地域に開かれた信頼される」学校教育を進めていきたい。

結びに、研究推進にあたり、これまで懇切丁寧な御指導と御指導をいただいた多くの先生方に深く感謝申し上げます。

【ご指導いただいた先生方】(順不同・敬称略)

埼玉県教育局市町村支援部 義務教育指導課指導主事	田沼 良宣	深谷市教育委員会 教育長	小柳 光春
義務教育指導課指導主事	清水 正之	次長兼指導主事	大澤 誠一
埼玉県教育局北部教育事務所 教育支援・学力向上推進担当 主席指導主事	石川 浩	学校教育課長兼指導主事	片桐 雅之
教育支援担当指導主事	齋藤 直美	主幹兼課長補佐兼指導主事	持田 栄
教育支援担当指導主事	岡村 和美	主幹兼課長補佐兼指導主事	簗輪 進司
学力向上推進担当指導主事	下条 徹	副主幹兼課長補佐兼指導主事	新井由美子
教育支援担当社会教育主事 兼主任指導主事	小久保幹則	課長補佐兼指導主事	森田 豊
寄居町立寄居中学校 校長	山口 勝	課長補佐兼指導主事	齊藤 寛
		課長補佐兼指導主事	吉田 勇
		課長補佐兼指導主事	浅見 哲也
		課長補佐兼指導主事	兵頭 一樹
		課長補佐兼指導主事	染谷 明信
		課長補佐兼指導主事	荻野 浩和
		課長補佐兼指導主事	石塚 学



【研究に携わった教職員】(敬称略)

平成 25 年度

島崎 祐子	矢島 久	金子 裕一	金井 孝義	落合 美喜	橋本 正之	大竹 真人
中井美貴子	山本 京子	大屋 朋子	笠原 裕子	浦部 誠	鴫田 恵	清水 裕子
岩崎 清志	塚越 善博	齋藤 啓子	新井 知章	高橋 宏典	小泉 明子	朝比奈孝子
柴崎 俊夫	秋山 由一	市川 智美	中林 秀明	境 達彦	強瀬 操	平野由美子
荒井 秀之	リーガン・ドーソン					

平成 24 年度

松島 猛	金澤 聡美	佐藤 敏子	小杉 元	伊藤 友美	池田 由香	植竹佐知子
ローズ・レオニダス	筒井真理子					

